

編集後記

今月の特集は「リハビリテーションにおけるハリの応用」である。話は古くなるが、15年前、ニューヨーク大学のIPMR（現在のIRM）で、たまたま講演にこられたOTのRoodさんの話をきいた際に、いささか教祖的・狂信的色彩があるなどと友人達と批判しながら、一方では、もしブラシでこする位である程度の治療効果があるものならば、東洋に伝わるハリ治療を再検討しなければいけないと思ったものである。しかし、数年を経ずして中国でハリ麻酔法が開発され、その後世界的にハリ治療の見直しの傾向がおころうとは全く思いもかけぬことであった。ハリ治療はリハビリテーション医療だけに限局されるものではないが、リハビリテーション医療においても積極的に応用すべきものであるか否か、この辺で十分に検討されるべきであろうと思われる。

今回の特集では用語としてハリ、針、鍼の三つが用いられている。われわれの感覚では鍼というと鍼治療を、針からは縫い針、時計の針、注射針を連想しやすいが、辞書をひい

てみると針は鍼の俗字とあり、意味は同じである。中国では漢字の簡略化が進められているので、昔の本には鍼が用いられているのである。一方、わが国の法律用語としては仮名書きが用いられている。一応、特集のテーマにはハリの字を使わせていただいた。

特集論文に関しては、相川貞男氏は針刺激効果について神経生理学的な面からの検討を、芹沢勝助・西條一止氏は経絡・経穴についての西洋医学的検討を、光藤英彦氏は針灸術についての新しい評価法について、高濱晶彦氏はハリ刺激に伴う生体の生化学的反応について、丹沢章八氏は片麻痺のリハビリテーションにおけるハリの応用を、それぞれ詳述されている。さらに田口順子氏はハリを使わないハリ治療として、低周波による経絡通電法を、陣内一保氏は中国におけるハリ治療の現況を報告された。

本特集がリハビリテーションにたずさわる方々のハリ治療に対する理解を深めるための一助となることを期待するものである。

（横山 巖）

次号予告（第6巻第12号）

特集 身障者雇用

身障雇用と保護雇用の基本的な考え方……………東京コロニー 調 一 興
身体障害者雇用促進法の改正と今後の問題点……………東大 松 島 静 雄
身体障害者の雇用と職業評価……………岸和田児童相談所 西 川 実 弥
座談会／身障雇用とリハビリテーション医……………拓杏園 今田 拓・他

講座 筋・神経系の電気診断（12）（体性感覚誘発電位）……………千葉大 小 林 英 夫
一頁講座 リハビリテーション用語集（6）……………七沢病院 福 井 園 彦

編集顧問

天 児 民 和
大 島 良 雄
小 池 文 英
砂 原 茂 一
津 山 直 一
水野 祥太郎

編集委員

明 石 謙
上 田 敏
大 井 淑 雄
大 川 嗣 雄
荻 島 秀 男
土 屋 弘 吉
横 山 巖
千 野 直 一

編集同人

赤 津 隆
今 田 拓
今 村 哲 夫
江口 寿栄夫
小 野 啓 郎
河 邨 文 一 郎
五 味 重 春
沢 村 誠 志
杉 山 尚
武 智 秀 夫
永 井 昌 夫
中 村 隆 一
野 島 元 雄
間 得 之
長谷川 恒雄
橋 倉 一 裕
平 方 義 信
福 井 園 彦
三 島 博 信
渡 辺 英 夫
飯 田 卯 之 吉
遠 藤 千 恵 子
小 川 孟
加 藤 一 郎
小 島 蓉 子
笹 沼 澄 子
鈴 木 明 子
高 田 玲 子
陳 慧 玉
土 屋 和 夫
松 村 秩
(以上五十音)
(順、敬称略)

（細田、鹿島）